

「障害のある生活と税金」

豊岡中学校 三年 山田 那音

僕の祖父は脳出血で倒れ、高次脳機能障害になりました。高次脳機能障害とは、脳卒中や事故などによる脳の損傷が原因で認知機能に起きる障害のことです。祖父は新しい事を覚えたり、思い出す事が出来ない「記憶障害」です。最初は二十分前の事も記憶が出来ないので何度もトイレに行ったり、運動のため、散歩に行くのですが、帰宅後散歩に行った記憶がないので何度も行ってしまいます。この障害は家族でも理解するのが難しく周りからも誤解されやすい「見えない障害」です。

そんな時に祖父達を支えてくれたのが税金です。祖父が倒れ、家族は悲しみ今後の事を話し合い、色々な事を調べました。退院して目が話せない祖父を一日中一緒にいる祖母の負担などを心配し、送迎付きのリハビリに通う事になりました。介護保険の介護サービスのおかげで収入がなくても負担が少なく通うことが出来たそうです。また訪問看護やデイサービスや、介護ベット、車いすなど貸してくれるサービスもしてくれました。他には、精神障害者保健福祉手帳を交付してもらうと住民税控除やタクシー、バスの運賃割引きなどがあり、よく見かける入間市循環バス「ていーろーど・ていーワゴン」の乗車券の交付も出来ます。

この他にも、障害年金は祖父を支える家族にとってとても助かり

ます。障害がある人を支えるのは家族でその家族を支えるのが社会保障なんだと思いました。少子高齢化が進み社会保障費用が増え、消費税が上がるけれど必要な人に必要な支援が出来る社会保障が大それた事なんだと思いました。また祖父のように目に見えない障害を持つ人は多く、最近ヘルプマークを見かけます。ヘルプマークは健康そうに見えて実は支援や配慮を必要としていることが分かりました。

僕は、今まで考えた事もなかったけれど、祖父の病気をきっかけに知ることが出来ました。また、身体に障害を持つ人や目に見えない障害を持つ人がみんな平等に明るく生活出来るための税金の使い方から考えていきたいです。そして、しっかり納税が出来る大人になれるように勉強を頑張っていけます。